

しまなみ



尾道市立市民病院広報誌

第44号

発行日：2020年1月

〒722-8503
尾道市新高山3丁目1170-177
tel:0848-47-1155
fax:0848-47-1004
<http://onomichi-hospital.jp/>

尾道市立市民病院理念

尾道市立市民病院は、信頼される安全で
質の高い医療を提供し、市民の皆さまの健康を守ります。



ごあいさつ

院長 大枝 忠史

皆様、新年あけましておめでとうございます。新しい年を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は新天皇のご即位に伴い、元号が新たになるという大きな出来事がありました。「平成」が終わり「令和」という新しい時代が始まる瞬間に立ち会い、襟を正した方も多かったのではないのでしょうか。ラグビーワールドカップの盛り上がりと感動、日本人科学者のノーベル賞受賞など、明るい出来事もたくさんありましたが、度重なる自然災害、高齢ドライバーによる交通事故の頻発等々、気持ちが暗くなるようなニュースも数多く見聞しました。今年は東京オリンピック・パラリンピックの年ですが、どのような1年になるのでしょうか。大きな災害のない、平穏な年となることを祈るのみです。

昨年末には、我が国の出生率が史上最低であり、その低下に歯止めがかからないことが大きく報道されていました。これは、日本では少子高齢化は今後ますます進み、その傾向は加速して行くということを意味します。恐らくこの大きな流れを変えることはできないのですが、私たちはその中で考え、行動し、協力して切り抜けて行かなければなりません。

さて、尾道市立市民病院は上記の理念に掲げてありますように、信頼される医療・安全な医療を提供し、市民の皆様の健康を守ります。これまで通り、急性期医療を中心とし、がんを始めとした

あらゆる疾患に最新の治療を行えるよう、職員は日夜努力し勉強いたしますし、病院もそれにふさわしい体制を整えたいと思います。そして、医師会の先生方や訪問看護・介護施設等との連携をさらに深め、患者さんやご家族に寄り添った医療を行ってまいります。

今年(次年度)の予定といたしましては、2台のCT撮影装置のうち老朽化した1台を最新のモデルに更新します。CT・MRIそれぞれ2台の体制で、これまで以上に正確で速やかな診断が可能となります。さらに医師会の先生方からの撮影のご要望にも、よりスムーズな形でお答えできるものと考えております。

また、4月からは救命救急科と総合診療科の常勤医師を新たに迎えることになりました。当院では「断らない救急」を標榜し、救急医療が当院の大きな役割の一つであると認識していますが、次年度は救急医療への対応をさらに充実したものにできると期待されます。

少子高齢化が急速に進む中、地域医療構想への対応(急性期ベッドを削減するという国の方針)、働き方改革(特に医師の)、診療報酬改訂(医療費削減)など、大きな課題が山積みですが、長期的なビジョンを持ちながら目の前の問題に取り組み、職員全員が一つの方向を向いて乗り越えて行けると信じています。本年も尾道市立市民病院への引き続きのご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2019 World Conference on Lung Cancer in Barcelonaに参加しました

病院事業管理部参与(外科) 川真田 修

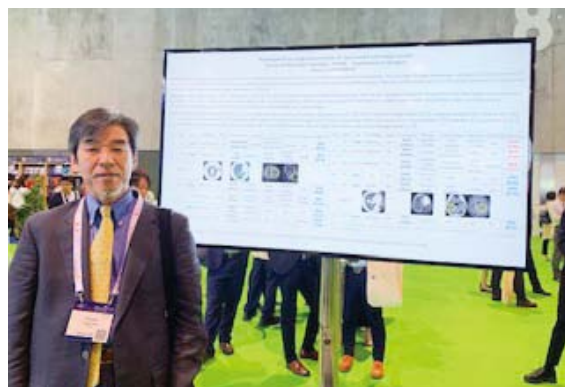
2019年9月7～10日にスペインのバルセロナで開催された世界肺癌学会に出席し発表してきました。発表演題はPostoperative oligo-recurrence of non-small cell lung cancerとStudy of five cases resected pulmonary pleomorphic carcinoma-immune checkpoint inhibitors are improved the prognosis?です。内容は非小細胞肺癌完全切除後の再発症例のうち一臓器に3個以内の再発症例は(oligo-recurrence)多臓器に再発した症例や個数が多い症例より予後がよく、特に局所治療(手術や放射線治療)を施行した症例はその後無再発で5年生存することもあるという発表と、当科で切除した肺多形癌5例を検討し、再発しても免疫チェックポイント阻害剤を使用すると予後が改善する可能性があるという発表でした。参加者も多く人気のあるセッションには会場に入れないことも度々でサテライト会場モニターを眺めることもありました。今回は開催地もよかったのか多数の日本人の先生にもお会いしました。

9月のバルセロナは気温30度以上で非常に暑かったです。ただ会期中1日だけ雨が降りその日は20度ちょっとと寒暖の差が激しかったです。ほぼいい天気が続き移動に困ることはありませんでした。バルセロナは大きな街で、会場は国際空港の近くにあり、街なかのホテルから会場までは地下鉄で30分ほどかかりました。ただ地下鉄はなかなか便利で、現地に行ってみると乗り換えなど迷うこともなく、切符も

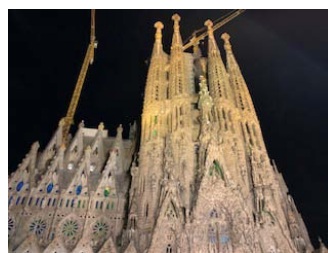
24時間、48時間、72時間乗り放題の種類があり用途に応じて選べるなど快適でした。またガウディに代表される見どころの多い街で観光客も非常にたくさんおられました。ご多分に漏れずサグラダ・ファミリアは日中と夜間(ライト・アップ)に訪れました。サグラダ・ファミリアは外観が有名ですが内部のステンドグラスも非常に美しく、情景にも圧倒されました。地中海に面しているため海産物も豊富で食事もしめました。サッカー観戦もしたかったのですが、ちょうど試合が行われていない週でカンブ・ノウスタジアム見学だけしてきました。10万人規模のとても大きなスタジアムでしたが、毎試合満席になるのだそうです。スタジアム内部にある展示室には、トロフィーなどが所狭しと並んでおり、バルセロナファンにはたまらない場所だろうと感じました。サグラダ・ファミリアは2030年までには完成するそうです。完成時にはまたバルセロナを訪ねてみたいと思わせる街でした。今回の発表に快く送り出してくれた外科スタッフおよび病院関係者に感謝し筆をおきたいと思います。



会場「フィラ・バルセロナ・グラン・ビア」



発表会場



サグラダ・ファミリア



ステンドグラス

第58回全国自治体病院学会in徳島

去る10月23日、徳島市で行われた全国自治体病院学会に、院長、看護師9名、臨床検査技師1名が参加しました。発表者の6名から、内容についてご報告させていただきます。



地域医療構想から病床機能を変更したA病院の 病床管理専従看護師長としての役割と成果

看護部 統括師長 穴戸雅美

当院は早急な経営改善に向けての取り組みが必然となり、2017年4月より病床管理専従統括看護師長として、円滑な空床の確保と全診療科の予約入院と緊急入院に備えたベッドコントロールを担うこととなった。更に病院を取り巻く医療情勢を鑑み、地域における当院の役割が検討され、2017年6月より「地域包括ケア病棟」を開設した。

2018年度の地域包括ケア病棟の病床稼働率90.6%、在宅復帰率93%、重症度、医療・看護必要度は15.6%と円滑な運営ができたことで経営改善の一助に繋がった。

また救急医療の推進のためにも、ICU4床からHCU8床へと変換した。これにより必要とされる患者の受入れも増加し、一般病棟の入院単価もアップした。

病床管理をする上で、病院方針と連結した病床管理をする為にも専従看護師としての役割は大きいと感じている。また各診療科の医師と看護師長、理学療法士、栄養士、薬剤師や診療情報管理士など、多職種との連携強化を図ったことで早急な対応ができた。

まだまだ課題はあるが、経営改善の為に職員が一丸となって「患者に選ばれ、リピーターとなって来院していただけるように取り組むこと」を目指し、また経営参画を意識した医療提供体制について考えていくことが重要である。

病棟看護師とリハビリスタッフ間での情報共有 の実態調査

看護部 小林有紀

A病棟は周術期を中心とした整形外科病棟として再編成され9ヶ月が経過した。患者のリハビリテーション室ではできている動作が病棟では活かされていない現状がある。そこで、看護師とリハビリスタッフ間での情報共有のあり方についての実態調査を行なうこととした。

病棟看護師とリハビリスタッフとの情報共有は必要であると両職種の全員が認識していた。互いに情報共有ができていた看護師は29%、リハビリスタッフは39%であった。患者の援助面で過介助になることがあるとした看護師は86%であった。患者のリハビリを見

たことがなかった看護師は86%であった。それぞれの職種と情報共有する面で難しいと思うことがあるとしていた看護師は50%、リハビリスタッフは59%であった。

看護師は患者のセルフケア能力をアセスメントし、できない部分のみ介助を行ない、患者が主体的に行えるように病棟内で、できるリハビリを取り入れていくことが重要となる。患者がリハビリテーション室で“できるADL (Activities of Daily Living, 以下、ADL)”を病棟看護師が把握することが“しているADL”を“できるADL”に近づけることに繋がると考える。今後は、リハビリスタッフと円滑に情報共有が行えるように、定期的なカンファレンスの場を設け、患者のニーズに沿った関わりを行っていききたい。

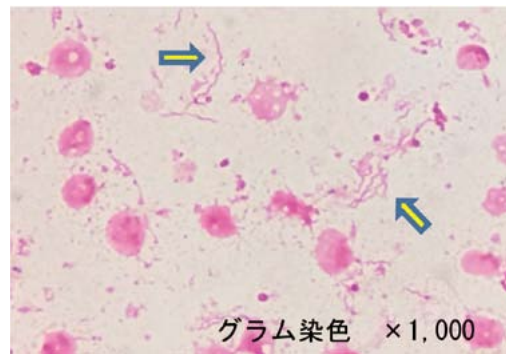
当院におけるヘリコバクター・シネディ検出状況

中央検査室 森 三郎

当院におけるヘリコバクター・シネディ検出例について報告した。ヘリコバクター・シネディはヒトやさまざまな動物の腸管に生息するら

せん状グラム陰性桿菌である(写真)。ヒトの免疫不全や透析などの易感染状態において同菌種の感染により下部消化管感染症、敗血症、蜂窩織炎などの消化管外感染が引き起こされる。過去4年間における当院での同菌種の検出は

5例であり、いずれも糖尿病や慢性腎不全といった基礎疾患を有していた。同菌種に対する抗菌薬治療はβ-ラクタム系薬の治療効果が期待され、いずれの症例もβ-ラクタム系薬が投与されていた。糖尿病や慢性腎不全といった基礎疾患を有し、発熱と皮膚症状及び消化器症状を呈する場合、血液培養を実施し同菌種の検出に努める必要があると思われた。



A病院外科領域における電子パス導入の現状

看護部 外科外来 クリニカルパス委員会
小川まどか

当院では2008年よりクリニカルパスを導入し23種類の紙パスを運用していた。2014年より電子パスが導入され当科でも検討し、現在5種類の電子パスが稼動している。今回は使用状況を年齢や在院日数などを分析した結果と成果を報告した。

鼠径ヘルニア修復術では、使用群94%、平均年齢使用群69±16.7歳。平均在院日数使用群4±0.8日。6%の未使用群は運用上の問題はあったが予定通り退院していた。同年5月下旬よりDPCを考慮し入院期間を3日から4日へ変更したため多少の誤差がみられた。次に痔核根治術ではすべて使用群であり、平均年齢61±15.5歳、平均在院日数5±0.0日であり、バリエーションもなかった。次の腹腔鏡下胆嚢摘出術では、使用群32%、未使用群68%はほぼ緊急入院であった。平均年齢使用群69±9.2歳、未使

用群71±12.5歳。入院期間平均使用群6±0.2日、未使用群11±6.8日であった。そして未使用群は術後の全身状態回復等に時間を要するため入院期間が延長していた。次に肺切除術では、同年6月下旬から運用開始した。開始後ほぼ全例の手術で使用した。平均年齢使用群73±7.5歳、平均在院日数使用群10±0.9日、未使用群10±2.3日であった。ばらつきのあった入院期間が明確となり、DPC上でも最善の状態での退院となった。最後に胃切除術では、同年9月下旬から運用開始した。平均年齢使用群76±6.0歳、未使用群75±6.1歳。平均在院日数使用群14±0.0日、未使用群23±13.7日であった。高齢者のパス未使用事例では、バリエーション発生により入院日数の遅延事例があった。

以上のことから、ハイリスク患者の手術件数も増えているが、電子パスを活用することで在院日数の短縮が経済効果に繋がり、更に医療の標準化や医療安全の視点からもパスを積極的に導入し活用していくことが必要となる。

救急病棟における家族の面会に対する思い

看護部 HCU 助永恵美子 田中由子
枝廣佳那 濱本美佳

救急病棟では、終末期にある患者の高校生未満の子供や家族以外の面会を制限することにジレンマを感じることもある。そこで、救急病棟に入室した患者の家族を対象に、面会に対するアンケート調査を行った。

面会制限についての回答は、現状でよい89%、改善してほしい11%であった。面会時間については、現状でよい58%、改善してほしい35%であった。

特に夕方の面会時間の延長を希望する家族が

多く、遠方からの面会者や交通手段がない場合への対応を求める意見もあった。今後は個々の患者、家族に応じて臨機応変に対応することが求められていると考える。患者にとって精神的支えとなる人を把握し、患者や家族が希望する場合は家族以外の面会を検討してもよいのではないかと考える。

限られた面会時間のなかで、家族とコミュニケーションを図りながら精神的ケアを行うことも必要である。今後も、カンファレンスを行いスタッフ間で患者、家族の思いを共有し、病棟全体で取り組んでいくことが課題である。

外来化学療法患者における緩和ケアスクリーニングの課題

渡辺陽子 山本慶子 島谷奈尾子 杉原弘記
岡本伸也 岡田昌浩 上塚大一 重森広志

外来化学療法患者のスクリーニング結果を分析し、今後の外来化学療法患者への継続した関わりを通して課題を検討した。男性45名、女性35名、平均年齢70歳であった。癌種別では、大腸癌28%、肺癌18%、乳癌17%などであった。外来化学療法患者の有害事象でだるさが最も多く、ますます高齢化し、自宅では臥床して

いる患者も多かった。また、だるさのある患者は気持ちのつらさが高い傾向にあった。NRS：6以上のしびれのあるがん性疼痛、末梢神経障害のある患者においては、全例鎮痛薬が処方されていた。NRS：6以上の有害事象のある患者は継続し評価するとともに薬剤だけでなくセルフケア支援を強化することが重要であると考え。今後もレジメン変更時の治療選択など患者の意思決定支援を積極的に行えるよう情報共有を行い、患者中心の最善のがん医療を提供していきたい。

脳MRI 検診

皆さん、毎年健康診断は受けられていますか？

職場の生活習慣病健診（40歳以上の方は特定健診）や人間ドック、各種がん検診等さまざまな検診を受ける機会があります。病気にならないための予防の中でも健康作りが一次予防とすると、健康診断は、早期発見早期治療のための二次予防です。なので、定期的な健康診断を是非おすすめしたいです。

なかでも、生活習慣病と大きな関わりのあるのが「脳卒中」。脳卒中とは、脳の血管が詰まる脳梗塞、血管が破れる脳出血などを言います。脳卒中はがん・心臓病に次いで、日本における主要な死因の1つにあるばかりでなく、寝たきりになる最大の原因でもあります。

脳卒中は突然起るものと思われがちですが、日々の生活習慣「高血圧・不整脈・糖尿病・喫煙・肥満」などが大きく関わっています。これらの生活習慣が長く続くと、動脈硬化が進行し、

脳の血管が詰まり脳梗塞になったり、血管が破れて脳出血やくも膜下出血になる恐れがあります。これらの症状は、死につながるだけでなく、後遺症により要介護状態になったり、認知症の原因ともなる病気です。

当院では、人間ドックに加えて脳ドックも実施しており、脳MRIにより血管が狭くなっているところや動脈瘤（血管のコブ）の早期発見も可能です。30分程度で検査できる「脳MRI 検診」も実施しております。

年齢を重ねても元気に過ごすために脳卒中对策は重要です。

脳に潜む異常を、早期発見し予防的な治療を行い、自身の健康を守りましょう。

＜お問い合わせ窓口＞

健診科

電話：0848-47-1170（代表）

診断・評価



診断

専門医が豊富な経験を元に的確な診断評価を行います。

治療が必要な場合、医療へご紹介します。

脳MRI検診後はどうするか？

次の判定例を参考にしてください。専門医の受診が必要とされた場合は、医療機関を受診するようにしましょう。

異常所見あり
(緊急性あり)

精密検査
(結果通知後速やかに)

異常所見あり
(緊急性なし)

精密検査
(3か月以内)

異常所見の
疑いあり

1年後を目安に
脳MRI検診を
再受診

正常

4～5年に1回程度
脳MRI検診を
再受診



コンケン大学（タイ）薬学生が当院で研修しました

タイ王国のコンケン大学薬学部生2名が2019年10月16日、17日の2日間、当院で研修を行いました。あっという間の2日間で、病院薬剤師である我々にとって有意義な学びのある研修でした。研修（見学）の一部についてご紹介します。

2019年10月16日（1日目）

初めにタイの学生さんに2日間の研修スケジュールを説明しました。その後、実際に病棟等へ行き、院内を全体的に見学しました。

お昼は、栄養管理室で実際に入院患者さんに提供している病院食を試食しました。常食と治療食を食べ比べて違いを学び、栄養補助食品も試飲をして栄養管理の必要性を学んでもらいました。

午後には病院長へ挨拶を行いました。タイの学生さんからコンケン大学の紹介があり、病院長からはタイと日本の薬剤師の役割の違いについて教えて頂きました。タイの学生さんは、タイでは処方せんが不要な薬でも、日本では処方せんが必要であることに驚いていました。病院長の流暢な英語にもビックリでした！



その後、薬剤部の調剤室の見学を行いました。薬学部生だけあって、全自動分包機や散薬監査システムなどの説明に熱心に耳を傾け、タイと日本の違いに大変興味を持たれていました。

5階病棟のサロンでは、日本の伝統文化である茶道を体験しながら当院の薬剤師や看護師とタイの学校や将来の希望など楽しくディスカッションしました。お茶を点てるのは初めてだそうです。

夜は、歓迎会を行い、タイの食事や文化について教えてもらいました。タイ語では言葉の最後に男性の場合は「クラッ」、女性の場合「カー」を付けるのが基本だそうです!!「ありがとう」をタイ語で「コップククラッ（男性）」・「コップクカー（女性）」で伝えるとニコリと笑顔を返して頂きました。



2019年10月17日（2日目）

2日目は実際の外来診察を見学しました。実際の診察を見学することは初めてだったそうで、学生にとってとても貴重な経験になったのではないのでしょうか。

午後は、近くの保険薬局を見学してもらい、病院と保険薬局での薬剤師の仕事内容の違いを学んでもらいました。

お互いに話したいこと、聞きたいことがたくさんあり、話は尽きませんがそろそろ時間…。また、尾道に来てくださいね。サワディ（さようなら）！

研修に同席した福山大学薬学部実習生から一言

私たちはコンケン大学の留学生と交流し多くのことを学びました。

彼らとお互いの学校や研究内容、将来の希望などについて、身振り手振りや単語などを使って話し合い、薬剤師や看護師主催のお茶会で茶道のマナーや、お互いの趣味の話など楽しく交流を行いました。

また、タイ語で「こんにちは」や「ありがとう」を教えてもらいました。

色々な話を教えてもらったり、話したりすることができて楽しかったです。

第32回厚友会文化祭を開催しました

11月1日(金)・2日(土)に厚友会文化祭を開催しました。

文化祭は職員のクラブ活動の成果の披露や、患者さんや地域の方々との交流の場として毎年開催しており、今回で32回目を迎えました。

職員や患者さん、一般市民の方により出品された絵画や書、写真、生け花、フラワーアレンジメント、陶芸作品、手芸作品等のほか、院内の部署ごとに作成した感染予防啓発ポスターが掲示され、来場者の投票によるコンテストも行われました。出展者数は86名で、作品数は100点以上にもなり、会場にはたくさんの展示物が並びました。

また、和服を着た職員がもてなすお茶会や、香りクラブによるアロマ・ハンドマッサージ、整形外科の小野先生によるお皿への絵付け体験など今年も大盛況で、非常に多くの方々楽しんでいただけたと思います。

多数のご応募・ご来場ありがとうございました。来年も是非ご参加下さいますようお願い致します。



第6回病院まつりを開催しました

11月2日(土)、尾道市立市民病院の1階フロア及び第一駐車場で、「第6回病院まつり」を開催いたしました。病院まつりは職員と市民の皆様、そして患者さんや家族の方々との交流を図りながら、市民の皆様にご自身の健康や医療に対する関心を深めていただけるよう行っています。

幸い天候にも恵まれ、たくさんの方に来ていただくことができました。

各部署によるフリーマーケットや屋台等のイベントのほか、尾道消防署のご協力による特殊作業車や救急車の試乗体験もありました。

1階待合ロビーに特設されたステージでは、

バンド演奏や歌、踊りなどのステージイベントで盛り上がり、さらに今年は尾道学園の吹奏楽部による演奏も行われ、入院されている患者さんや家族の方々、また、ご来場していただいた方に和やかなひとときを提供できたと思います。

参加して下さった皆様、ご協力いただきました方々に改めてお礼を申し上げます。



フットサル部

フットサル部では週に1度集まって活動しています。

ほどよい運動で汗をかき、代謝を促し、ストレスも発散し、身も心もリフレッシュできます。チームスポーツはコミュニケーションがとても大切です。自分や仲間のしたいこと・してほしいことを考えプレーし、お互いに意思疎通が出来たときは楽しく、気持ちいいです。また、職種の垣根を越えて交流することができることも魅力です。仕事上でも多職種間のコミュニケーションがとりやすくなりました。今後もボールを蹴りながら相互理解と意思疎通に励んでいきます。



科別診療割表

診療受付時間 午前8時30分から午前11時まで (救急は随時)
 休診日 土曜日・日曜日・祝日・12月29日から翌年1月3日

| 診療科 | 科別 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 備考 | |
|----------------|-----|------|------------------|------------------|-----------------------|------------------|--|--------------------------------------|
| 内科 総合診療科 | 午前 | 1 診 | 水戸川 剛秀 (内科全般) | 開原 正展 (腎・高血圧) | 水戸川 剛秀 (内科全般) | 水戸川 剛秀 (内科全般) | 開原 正展 (腎・高血圧) | |
| | | 2 診 | 開原 正展 (腎・高血圧) | 中島 有理 (総合診療) | 藤本 靖郎 (総合診療) | 大城 勝 (消化器内科) | | |
| | | 3 診 | 大城 勝 (消化器内科) | 長澤 紗詠子 (糖尿病) | | 岡野 由佳 (総合診療) | 長澤 紗詠子 (糖尿病) | |
| | | 4 診 | 藤本 靖郎 (総合診療) | 岡野 由佳 (総合診療) | 平野 紘康※1 (リウマチ・膠原病) | | 山脇 泰秀 (総合診療) | ※1 予約制 |
| | 総診1 | | | | | 藤本 靖郎 | | |
| | 午後 | | 検診 | 検診 | 検診 | 検診 | | |
| | | | 長澤 紗詠子 (糖尿病) | 蛭川 英典※2 (糖尿病) | 山脇 泰秀 (総合診療) | 長澤 紗詠子 (糖尿病) | ※2 予約制 | |
| 呼吸器内科 | 午前 | | 片岡 幹男 | 片岡 幹男 | 片岡 幹男 | 平生 敦子 | | |
| | 午後 | | | フットケア外来※3 | 検査 | 平生 敦子 | ※3 第2・4水曜日 ※4 禁煙外来14:00から | |
| 消化器内科 | 午前 | 1 診 | 河合 良成 | 平岡佐規子 | 河合 良成 | 河合 良成 | 宮部 欽生 | |
| | 午後 | 2 診 | | 宮部 欽生 | | | | |
| 循環器内科 | 午前 | 1 診 | 山田 大介 | 小林 博夫 | 高村 俊行 | 高村 俊行 | 小林 博夫 | 心臓リハビリテーション外来 (月・水・金)15:00~16:00 |
| | 午後 | 診察 | 小林 博夫 | | | ペースメーカー外来※6 | | ※6 第1・2火曜日 14:00から |
| 神経内科 | 午前 | | | | | | | |
| | 午後 | | | | | 武本 麻美※7 | ※7 第3・5金曜日 | |
| 外科 (肛門科) | 午前 | 1 診 | 川真田/小野田 | 村田 年弘 | 川真田 修※8 | 小野田 正 | 村田 年弘 | ※8 予約制 |
| | | 2 診 | 井上 弘章 | 上塚 大一 | 木村 圭佑 | 川真田 修 | 下田 篤史 | |
| | | 3 診 | | | 上塚 大一(肛門科) | | | |
| 血管外科 | 午前 | | | 越智 吉樹 | | 越智 吉樹 | | |
| | 午後 | | 手術 | 手術 | | 手術 | | |
| 乳腺外科 (乳腺外来) | 午前 | | 梶原 友紀子(予約) | | | 下妻 晃二郎(予約) | 9:00~12:00 | |
| | 午後 | | 梶原 友紀子(予約) | | | | | |
| 整形外科 | 午前 | 1 診 | 廣岡 孝彦(予約) | 藤井 淳一 | 廣岡 孝彦(予約) | 藤井 淳一 | 廣岡 孝彦(予約) | |
| | | 2 診 | | | | | | |
| | | 3 診 | 藤井 淳一 | 迫間 巧将 | 迫間 巧将 | 渡邊 益宜 | 小野 智毅 | ※10 渡邊(第1・3・5金曜日) |
| | | 4 診 | 渡邊 益宜 | 小野 智毅 | 井上 博登 | 井上 博登 | 渡邊/藤井※10 | ※10 藤井(第2・4金曜日) |
| | | 5 診 | | 装具 | 手術 | 手術 | 装具 | |
| 形成外科 | 午前 | | 原 直紀 | 井上 温子 | | | | |
| | 午後 | | 原 直紀 | 井上 温子 | | | | |
| 小児科 | 午前 | | 井上 直樹 | 井上 直樹 | 井上 直樹 | 井上 直樹 | ※11 第2水曜日休診 | |
| | 午後 | | 佐藤恭子(循環器外来)※12 | 乳児検診 | 林(発達外来)※13 | 脳(循環器外来)※14 | ※12 第2・4・5火曜日 14:30から ※13 第1木曜日 ※14 第4金曜日(偶数月) | |
| 小児外科 | 午前 | | | 野田 卓男(予約)※15 | | | ※15 第1・3火曜日 | |
| | 午後 | | | | | | | |
| 脳神経外科 | 午前 | 1 診 | 土本 正治 | 岩戸 英仁 | 岡 哲生 | 土本 正治 | 細本/岩戸※16 | ※16 細本(第1・3・5金曜日) ※16 岩戸(第2・4金曜日) |
| | 午後 | 2 診 | | | | | | |
| 産婦人科 | 午前 | 新患再来 | 大村 裕一 | 大村 裕一 | 大村 裕一 | 大村 裕一 | | |
| | 午後 | | 検査 | 手術 | 検査 | 検査 | 14:00から | |
| 皮膚科 | 午前 | | 榎野 かおり | 榎野 かおり | 榎野 かおり | 榎野 かおり | | |
| | 午後 | | 検査 | 手術 | 手術 | 検査 | | |
| 泌尿器科 | 午前 | 1 診 | 大枝 忠史 | 井上 陽介 | 大枝 忠史 | 杉本 盛人 | 大枝 忠史 | |
| | 午後 | 2 診 | 杉本 盛人 | 大枝 忠史(予約) | 杉本 盛人 | 大枝 忠史(予約) | 井上 陽介 | |
| 耳鼻いんこう科 | 午前 | | 診療あり | 診療あり | 診療あり | 診療あり | 広島大学病院より | |
| | 午後 | | | 佐々木(睡眠時無呼吸外来) | | | | |
| 眼科 | 午前 | | | | | 諫見 久恵 | 午前のみ | |
| | 午後 | | | | | | | |
| 放射線科 | 午前 | 画像診断 | 三船 啓文 | 三船 啓文 | 三船 啓文 | 三船 啓文 | | |
| | 午後 | 治療 | 片山 敬久(予約) | 画像診断 | 画像診断 | 画像診断 | 予約制 | |
| 歯科口腔外科 | 午前 | | 吉田 明弘 | 吉田 明弘 | 手術 | 吉田 明弘 | | |
| | 午後 | | 口腔外科 | 口腔外科 | 口腔外科 | 手術 | 予約制 | |
| リハビリテーション科 | 午前 | | | 吉原 大貴 | | | | |
| | 午後 | | 田中 芳幸 | | | | 予約制・診療日が祝日の場合は火曜日 | |

専門外来のご紹介(予約制)

- 月 曜 : ストーマ外来(第2・4)/頭痛外来
- 火 曜 : ペースメーカー外来(第1・2週)/睡眠時無呼吸外来
- 水 曜 : 禁煙外来(毎週)/フットケア外来(第2・4週)
- 木 曜 : 肝臓専門外来/小児発達外来(第1週)
- 金 曜 : 乳腺外来(午前)/小児循環器外来(偶数月/第4週)

